



WAVE 53号

ウェーブ

川越市で地域主体のワーカーズ誕生

川越市は2011年度からワーカーズ・コレクティブへの支援政策を行っています。埼玉ワーカーズ・コレクティブ連合会と提携し、ワーカーズの起業講座を続けてきました。事務局体制を整えた連合会が、そこで蒔いた種に情報を与え、仲間集めの応援をして、一つの芽ぶきを支えました。

公的サービスだけでは安心な社会は築けない

昨年、川越市で開催された起業相談会に参加されたかすみ野に住む、田中和子さんは、長い間介護保険事業所で仕事をしてきました。

介護の社会化を謳い、施行された介護保険制度は10年がたちました。単価が安い家事支援はどんどん削られていく過程を見て、田中さんは、介護保険だけではこの超高齢社会は乗りきれないことに気づきました。ご自身の住む、かすみ野の地域は、高齢化の進行が著しく、介護保険から漏れてしまうニーズに対応するインフォーマルなサービスをつくる必要を感じていました。私たちワーカーズ連合会は、仲間集めのお手伝いをし、5名の方々が名乗りをあげました。

市民の小さなニーズに応え、安心できる地域社会をつくりたい、ヘルパー資格を生かしたいなど、メンバーが集まる会議を月2回開催し、意思が固まり、ワーカーズ準備会「ま・た・ね」が発足しました。

中間支援組織として連合会が起業を後押し

起業までを支援する連合会には、38団体が集っています。事業を立ち上げた38の事例があり、様々な経験に基づくノウハウが集まっています。20数年の事業実績があるワーカーズもあります。福祉に関するワーカーズは8団体あり、その8部のパンフレットは「ま・た・ね」の立ち上げに大いに参考になりました。



「ま・た・ね」出来立てのパンフレット

今後、「ま・た・ね」の事業開始まで、事業計画の策定、法人格の取得、組織運営、など次々に課題が出てきます。連合会に集う38のワーカーズの事業実績やノウハウを存分に生かし、引き続き設立支援を継続していきます。

ワーカーズだからできること

誰もが安心して暮らせる地域社会は、残念ながら自ら動かなければ、叶うものではありません。私たちは、幸い、ワーカーズ・コレクティブの働き方と作り方を知っています。市民が必要とするサービスを市民の協同で興す事業はハードルも低く、働きやすさとやりがいを感じられる働き方です。川越市の福祉ワーカーズの発足は、市民の生活にきっと役立つことと思います。

「ま・た・ね」はまだこれから組織を作り上げていく段階です。川越市内にお住いのみなさん、地域の隅々、そこに暮らす人々に思いを馳せ、安心できる地域社会づくりのために、ワーカーズに参加しませんか。

事務局 浅草秀子



第2回埼玉ワーカーズフォーラム報告

社会の中のワーカーズ・コレクティブ

3月30日コーププラザ(南浦和)にて、連合会が主催する「第2回ワーカーズフォーラム」が開催されました。今社会を取り巻く状況を知り、ワーカーズが事業していくうえでの心構えや考え方の確認をするという目的で TPP をテーマにしました。折しも安倍政権が TPP 参加を表明した直後で、108名の参加者は熱心に耳を傾けました。また、ワーカーズの仲間からは地域に貢献する事業の様子が報告され、天笠氏からもコメントをいただきました。

《第1部 講演会》

「知らなかった」ではすまされない！

TPP <環太平洋戦略的経済連携協定> がもたらす生活への影響

環境問題ジャーナリスト・法政大学講師 天笠啓祐氏

TPP に参加するということは国の形も暮らしもかえてしまう大変なこと、これは世界経済が行き詰った結果であり、昔だったら戦争が起きていた。戦争の代わりに TPP なのだと言笠氏は説明しました。TPP は国の間の貿易障壁を取り払い、多国籍企業が他国での経済活動をやりやすくすることを目的としている。強いものが弱者を食いものにしながらさらに強くなるための仕組みです。

報道ではこの TPP を自由な貿易・自由な競争と良い事に伝えていますが、しかし自由貿易とは日本の自動車を輸出しやすくし、代わりに食料が輸入されやすくなるということです。

さらに自由貿易は食の安全を脅かします。アメリカの企業は食品添加物の種類を増やし、残留農薬を増やして腐りにくい食品を作り、家畜に抗生物質やホルモン剤を与える食肉生産や、遺伝子組み換え食品などの効率を優先した食料生産をエスカレートさせています。今までは各国の食品添加物や残留農薬、ホルモン剤、抗生物質、遺伝子

組み換え食品の規制がそれらの食品の輸入を食い止めていたが、TPP に参加することで貿易障壁の撤廃を求められ、規制緩

和の要求がさらに激しくなります。現にニュージーランドは食品表示制度の変更を求められ、カナダでは二酸化炭素排出規制の緩和が求められました。日本では2月から輸入牛肉の月齢制限を20か月から30か月に引き上げ、狂牛病感染肉の脅威が増えています。

また水や健康保険など人が生きるために必要な資源や制度も、多国籍企業に狙われています。国民の生活を守ろうとしても貿易障壁とされ、民間企業にやらせる方向になれば利益が優先し、最低限の生活が守られなくなる危険があります。

TPP への参加を政府は表明しましたが、決してあきらめることはないと言笠氏は言います。地域コミュニケーションを大事に活動してきた「ワーカーズ」や「協同組合」などの組織が、同じ志を持つ人たちと世界的に繋がっていくことがますます大切になっていくとのこと。

私たちは、一日に3回も変えるチャンスがあると言笠氏は言います。良い物を買ひ、悪い物を買わなければ良いのだと。今までやってきたことにエールをもらい、これからの目標を示してもらえた講演会となりました。



天笠啓祐氏



フォーラム会場風景

企業組合つくし 佐藤はるみ



《第2部フォーラム 地域のワーカーズの報告》



『安心安全な食を届け続けたい』

企業組合 ワーカーズ・コレクティブ旬 専務理事 根岸真澄

生活クラブ埼玉本部1階で、仕出し弁当、幼稚園給食、社会福祉法人『さくら草(障がい者施設)』の昼食作りを行っている。

幼稚園の弁当には、放射能に対して国より厳しい基準値を設けている一番信頼できる生活クラブの消費材を使用している。『さくら草』は、食べ易さも考慮し、安全な市販の食材を使用することもある。

生産者の顔が見える生活クラブの信頼できる食材を仕入れ、その食材を『旬』を信頼している人が食べることは『安心』につながると考えている。安全なものを安心して食べてもらえる弁当を作り続けることが、私たちの願いであり目標でもある。

『誰もが住み慣れた地域で暮らし続けるために』

NPO法人 ワーカーズ・コレクティブ青いそら 共同代表 永瀬美知子

『自分が歳をとった時に使えるサービスを作ろう』『地域に憩いの場としての拠点が欲しい』という思いでこの事業を始めた。

コミュニティレストラン・生活サポート・配食事業を行っている。

三郷文化会館の中にあるコミュニティレストランでは、土日に会館でイベントが行われる際は大変混み合う。地域の方の弁当は1個から配達し、一人暮らしのお年寄りに喜ばれている。平日は地域の方のサークル活動や会議の場として利用されている。青いそらで企画するイベントなどもあり、いつか自分たちも利用したい場であり続けたい。ただし、こうした取り組みは非効率であり理想と現実のギャップも大きく埼玉県最低賃金を下まわっている。

たすけあい生活サポートは、介護保険などでは賄えない隙間になっている部分のサービスを行っている。公的には対応しない家事・産後ケア・車椅子の介助・移送サービスなど、できることはなんでもやっている。自分たちが高齢になった時や、ハンディをもった時のことを想像し、利用する人の立場でサービスを提供している。日々発生する問題は、毎月の運営会議で議論し、アイデアを出し、解決策を探っている。

地域の皆様に応援していただきながら、ホッとできるお店『青いそら』になるよう頑張っていきたい。



コメント・感想 天笠啓祐さん

私たちに何ができるのか。

アメリカに遺伝子組み換え表示を強く求めている消費者団体がある。私たちが、そのような団体と連帯するとアメリカ政府は日本政府に強いことが言えなくなってくるので、同じ志を持っている世界中の人たちとつながり、日々活動していくことが大事である。ワーカーズコレクティブが取り組んでいることは、その場で終わっているわけではない。良いものを食べ、悪いものを食べなければ世界を変えられる。小さなことを根気よく積み重ねてやっていくことが世界につながるのだと感じた。



次のステップに踏み出そう

配送ワーカーズ 6 事業所すべてが法人格を取得

生活クラブ生協の配送を担うワーカーズの法人格取得は、2007年からの大命題となっていました。安定した事業体を望む生活クラブからの要請もありました。並行して6団体の一本化についても話合いが重ねられましたが、2009年に「ハニーBee」(所沢)、2010年に「クローバー」(狭山)がそれぞれ企業組合を取得し、他はなかなか続く事ができませんでした。しかし2012年1月に、残り4ワーカーズの法人格取得が改めて確認され検討が重ねられました。

企業組合は、代表の無限責任を有限責任にでき、組合員1人1票制という運営がワーカーズの運営と似ている反面、理事会が最終決定の場になってしまいます。他にも各ワーカーズにおける様々な課題について半年以上メンバーで討議を重ね、2013年4月1日にすべての配送ワーカー



わかば企業組合(川口)の設立総会 2013年1月

ズが登記を完了、法人として新年度の事業を開始させることができました。今後もワーカーズとして社会に貢献できる事業体をめざしたいと思います。

SOU 企業組合 代表理事 高木友紀



ワーカーズってなに？ 出前講座 講師派遣します
2時間 1万円 + 交通費 (関係団体は5千円)

ワーカーズをもっと知りたい、もっと広めたい。そんな人たちのための冊子

(事務局にお問い合わせください)

「ホップステップワーカーズ
起業のためのガイドブック」

改訂新版！埼玉W.Co連合会発行 500円

「地域で暮らし続けるために
共に支える ワーカーズ・コレク
ティブの福祉事業事例紹介」
WNJ発行 500円

「第10回
ワーカーズ・コレクティブ全国会議
in 千葉 記録集」
WNJ発行 1200円

WNJ：ワーカーズ・コレクティブ ネットワーク ジャパン (全国組織です)

あとがき 古い団地に住んでいる。狭いのでお隣が引っ越す際に買わせてもらって2軒のベランダを通り抜けられるように暮らしている。今回1軒をリフォームすることにした。理由は娘が家を出たことと、来年消費税が上がること。南海トラフ沖地震が来たら潰れるかと思っていた我が家だが、最高な自然環境と良好な近所との関係、何より使い込んだ古さに愛着はひとしお。家族や社会・自然の影響を受けながら家とともに生きていくと実感。(ふ)

ワーカーズ・コレクティブとは、経営と労働を自主管理・自主運営する主体的な働き方で、地域に開かれた労働の場を作り出すものです。

発行・・・埼玉ワーカーズ・コレクティブ連合会

1部 100円

発行責任者・・・後藤成美 編集・・・広報チーム 佐藤/福島/齊藤/大塚

〒336-0031 さいたま市南区鹿手袋1-5-3 ひゅうまんポスト内 電話 048-844-0221 FAX048-838-7884

<http://saitama-workers.com/>